

## 当院では以下の研究を実施しております。

この研究は、通常の診療で得られた過去の記録を用いて行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

## 腹部 CT 画像を用いた椎体骨密度および体組成指標と脆弱性骨折との関連に関する後ろ向き観察研究

### 1. 研究の対象

2018年4月1日～2025年12月31日に当院で腹部CTを受けられた方

### 2. 研究目的・方法

骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折は高齢者の要介護化やQOL低下の主要因であり、再骨折を含む医療・介護負担の増大につながる。現在、骨粗鬆症評価には骨密度測定（DXA）が標準である一方、受診率・継続率の課題があり、骨折リスクが未評価のまま経過する症例が一定数存在する。腹部CTは日常診療で広く施行されており、椎体海綿骨CT値（Hounsfield Unit: HU）による骨密度推定や、L3レベルの骨格筋量、内臓脂肪・皮下脂肪などの体組成指標を同時に評価できる。本研究は、骨折発生前に撮像された腹部CTを用いて、椎体CT値および体組成指標と脆弱性骨折との関連を検討し、腹部CTを用いた“機会的スクリーニング”の有用性を明らかにすることを目的とする。得られた知見は、骨折高リスク患者の早期同定と介入（骨粗鬆症治療、運動・栄養、転倒予防）につながり、院内の診療連携を強化する根拠となることが期待される。

### 研究デザイン

後ろ向き観察研究（診療情報・画像の二次利用、介入なし、侵襲なし）

### 診療データ抽出対象期間

2018年4月1日～2025年12月31日

### 研究実施期間

臨床研究倫理審査委員会承認後～2029年1月31日（データ抽出、画像計測、解析、論文化を含む）

予定研究対象者数：合計約300例（骨折群150例、対照群150例）

主要評価項目：L1椎体海綿骨CT値（HU）

※L1椎体海綿骨にROIを設定し平均HUを測定します（可能な限り皮質骨・骨硬化を避ける）。

造影の有無や撮像条件（管電圧等）は記録し、解析で考慮します。

副次評価項目：L3骨格筋面積（SMA）、骨格筋指数（SMI）、内臓脂肪面積（VAT）、皮下脂肪面積（SAT）、年齢、性別、身長・体重（BMI）、既往（ステロイド使用、糖尿病等）、DXA結果（利用可能な場合）など

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、年齢、性別、身長・体重（BMI）、CT画像、カルテ番号等

※研究に用いる情報は研究用IDを付与して仮名加工し、氏名等の個人を直接識別できる情報を削除

したうえで解析します。照合表は研究責任者が院内のアクセス制限された環境で厳重に保管します。

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも、診療上の不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：東京品川病院 放射線科 森谷淳二

住所：東京都品川区東大井 6-3-22 TEL：03-3764-0511（代表）

（2026年1月7日作成）